

**令和 8 年度 第 1 回生野区区政会議
こどもの未来部会**

1 開催日時

令和 8 年 6 月 1 日（月） 19 時 00 分～

2 開催場所

生野区役所 6 階 604・605 会議室

3 出席者

（区政会議委員） 7 名

西村委員、浮田委員、井筒委員、足立委員、安委員、マヤ委員、今井委員

（その他関係者） 1 名

上田生野区 PTA 協議会会長

（生野区役所） 10 名

齋藤生野区長、大川副区長、宮城総務課長、長谷川教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山崎教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、森岡保健福祉課長、藤原子育て支援担当課長、金田区政推進担当課長、保井区政推進担当課長代理

4 議事

（1）令和 7 年度生野区の取組振り返りについて

（2）本日の意見交換の主なテーマ

5 報告

（1）区政に関する意見交換会の開催について

（2）その他

6 配布資料

・資料 1 令和 7 年度生野区の取組について～振り返り～
（全体会・各部会共通）

・資料 2 本日の意見交換の主なテーマ

・資料 3 中学生を対象とした区政に関する意見交換会について

・資料 4 「区民わがこと SDGs」の推進にかかる区ごとの SDGs ゴールの選定

・参考資料 1 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応

7 会議内容

○金田区政推進担当課長

それでは皆さまお待たせいたしました。お時間になりましたので、ただ今から、令和8年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会を開催させていただきます。本日はご多用のところ、当会議にご出席いただき誠にありがとうございます。私は、この4月に区政推進担当課長へ着任しました金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

さて、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介します。委員名簿の順でお名前をお呼びいたします。

西村委員でございます。

○西村委員

西村です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

浮田委員でございます。

○浮田委員

浮田です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

井筒委員でございます。

○井筒委員

井筒です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

足立委員でございます。

○足立委員

こんばんは。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

安委員でございます。

○安委員

公募の安と言います。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

マヤ委員でございます。

○マヤ委員

カトリ・マヤです。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

今井です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

なお本日、村岡委員及び北山委員については欠席です。

また、当部会につきましては、分権型の教育行政を担う区役所が、保護者・区民の多様な意見・ニーズをくみ取るための会議としての役割も担っていることから、本日、関係者として区 PTA 協議会から上田会長にご出席いただいております。

○上田生野区 PTA 協議会会長

上田です。よろしくお願いします。

○金田区政推進担当課長

本日の会議は、委員定数 9 名に対して 7 名のご出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席にて有効に成立していることをご報告いたします。

そして、本日の傍聴者は 1 名となっております。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成しまして、後日、区のホームページ等で公開させていただくほか、会議の様子を収録しまして、後日 YouTube において配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていきたいと思いますので、録音や撮影について、ご了承のほどよろしくお願いいたします。なお、会議録を作成する都合上、ご発言の際はマイクを使用いただきますようご協力お願いいたします。

また本日の会議では様々なご意見をいただきたいと思いますと考えておりますが、ご発言内容につきましてはお互いを尊重しながら活発な意見交換ができる場となりますようにご配慮をよろしくお願いします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。

「令和 8 年度第 1 回生野区区政会議こどもの未来部会次第」をご覧ください。

まず、資料 1 としまして、事前に送付しております「令和 8 年度第 1 回生野区区政会議資料 令和 7 年度生野区の取組について～振り返り～」という A4 縦の資料がございます。

次に、資料 2 としまして、「本日の意見交換の主なテーマ」という A4 横の資料がございます。

次に、資料 3 としまして、「中学生を対象とした区政に関する意見交換会について」という A4 横の資料。

次に、資料 4 としまして、「『区民わがこと SDGs』の推進にかかる区ごとの SDGs ゴールの選定」という A4 横の資料。

最後に、参考資料 1 としまして、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、

対応」という A4 横の資料になります。資料がお揃いでない場合は挙手をお願いいたします。

本日の流れをおおまかに説明させていただきますと、議事 1 では、資料 1 の生野区運営方針振り返り、事前にいただいたご質問等と区の考え方を報告し、議事 2 では資料 2 の本日のテーマによる意見交換を行っていただきます。報告 1 では区政に関する意見交換会の開催について、報告 2 「その他」としまして、資料 4 「区民わがこと SDGs のゴール選定」について説明をさせていただきます。

ここで、今年度最初の会議となりますので、4 月 1 日付けの人事異動で新たに着任した方々をご紹介します。

まず、生野区長の齋藤でございます。

○齋藤生野区長

齋藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長の長谷川でございます。

○長谷川教育支援担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

長谷川でございます。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長の山崎でございます。

○山崎教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

山崎でございます。よろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

区政推進担当課長代理の保井でございます。

○保井区政推進担当課長代理

保井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○金田区政推進担当課長

以上になります。改めてよろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、西村部会長にお願いしたいと思っております。西村部会長、よろしくお願いいたします。

○西村委員

部会長の西村です。

ただいまから、令和 8 年度第 1 回こどもの未来部会を開催します。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のためどう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運

営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催にあたりまして、齋藤区長からごあいさつをお願いします。

○齋藤生野区長

皆さま、こんばんは。生野区長の齋藤でございます。本日はお忙しい中、生野区区政会議のこどもの未来部会にご出席いただき、本当にありがとうございます。

既にご存知のことかとは思いますが、この区政会議は条例に基づいて設置されている本当に大切な会議となっております。区における施策・事業について区民の皆さま方から意見・評価をいただき、立案段階から意見を把握し、適宜これを反映させていく。また、施策の実績や成果について評価いただく。そういったご意見を聞くことを目的としております。

こどもの未来部会は子育て・教育がテーマということで、次世代を担うこどもたちが、この生野区で健やかに育つための環境づくりや相談支援体制の整備などの分野となっております。

本日は、令和7年度の取組振り返りなどについてご説明させていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴し、より良い区政に繋げてまいりたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○西村委員

ありがとうございました。

それでは、早速、議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の今井委員に会議の進行をお願いしたいと思います。それでは、今井委員、よろしくお願いします。

○今井委員

ありがとうございました。部会長からご指名いただきました今井です。

これから、皆さまの意見交換を円滑に進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の次第に沿いまして、「議事1 令和7年度生野区の取組振り返りについて」及び「議事2 本日の意見交換の主なテーマ」について区役所から説明をお願いいたします。

○保井区政推進担当課長代理

総務課区政推進担当の保井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。では私の方からご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは、令和7年度の生野区の取組についてご説明いたします。前方のスクリーンをご覧ください。

まず、はじめに「生野区運営方針とは何か」ということについて、簡単にご説明いたします。

生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンの実現に向けた毎年度のアクションプランとなります。下の図をご覧くださいとイメージがしやすいかと思います。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが「生野区将来ビジョン」であり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが「生野区運営方針」となります。

それでは、「こどもの未来部会」の分野についてご説明いたします。詳しい取組内容につきましては、事前に送付いたしました「資料1」に記載させていただいておりますので、今回は取組結果を中心にご紹介いたします。前方のスライドか、お手元の資料1をご覧ください。

まず、15 ページ、経営課題3「子育てにやさしく教育につよいまち」についてです。生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりもとりこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまちをめざすべき将来像として設定しています。

戦略3-1「安心してこどもを生み育てることができる環境づくり」としまして、次世代を担うこどもたちが健やかに育つための環境や相談支援体制があり、安心して子育てができるまちとなっている状態をめざしました。

めざす状態を数値化したアウトカム指標として、「子育てに関するイベント等でのアンケートで『イベントが子育てしやすいまちづくりに役立っていると感じる』と回答した割合」を、令和8年度までに80%以上と設定しましたが、令和7年度時点で99.4%となっております。

16 ページにうつりまして、具体的な取組としては、「妊娠から出産など各ライフステージに応じた子育て支援の充実」を図るため、保健師のサポート内容を広報紙にて周知するなどの取組を行い、「安心して楽しく子育てできる環境づくり」として、子育て家族を対象とした各種イベントを実施するなど、積極的な啓発活動などに取り組みました。

次に、17 ページ、戦略3-2「未来を生き抜く力の育成」です。めざす状態を、「生野区のこどもたちが、確かな基礎学力のもと、広い視野を持って、社会や人生が変化しても課題解決していく力を身につける状態」として取組を進めました。

アウトカム指標としましては、2項目を設定し、アンケートで「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦したい」と思う割合を令和8年度末までに90%以上としておりますが、令和7年度時点で93.3%となっております。

また、生涯学習ルーム参加者アンケートで、「生涯学習事業の内容を地域行事等で活かすことができた」と回答した割合について、令和8年度までに70%以上と設定しており、令和7年度末時点では、64.9%となっております。

18 ページにうつりまして、具体的な取組ですが、「次世代の学校づくり」としまして、学び支援事業や「いくの塾」などを実施したほか、「まちの教育力を上げる」としまして、生涯学習ルームを開設して学習機会の提供を行ったほか、学習成果の発表や交流の場の提供などの取組を実施しました。

以上が令和7年度の生野区運営方針の振り返りになります。

次に事前にいただいた、ご質問と区の考え方、対応について説明させていただきます。スライドはございませんので、右上に「参考資料1」と書かれた資料をご覧ください。

まず一つ目、くらしの安全・安心部会の長谷川委員よりいただいたご質問です。

各まちづくり協議会への指導についてということで、「ホームページに掲載されているまちづくり協議会の活動で各協議会のホームページが更新されていないものが大半ですが指導・推進はしていますか。また、防災・防犯のところにある防災マップも古いものが多いですが指導はしていますか。」というご質問に対しまして、区の考え方、対応でございますが、「区役所では、自律的な地域運営の仕組みであるまちづくり協議会を、中間支援組織（まちづくりセンター）を活用しながら支援しています。地域自ら取り組む広報活動についても、地域の実情に応じて助言を行うなど、引き続き支援を進めてまいります。また、防災マップについては、地域と区役所が連携しながら作成しております。今後も、地域との連携を継続しながら進めてまいります。」という対応回答になります。

続きまして二つ目のご質問です。こどもの未来部会の足立委員よりいただきました。

生野工業高校の跡地についてということで、「元は市立だった生野工業高校は、大阪府に移管、無償譲渡された。しかしながら、高校再編の対象校となり、募集停止等を行っている。当初の譲渡の前提である『高校用途としての継続利用』ではなくなる。大阪府が保有、処分するのではなく、跡地については地域住民の意向を聞き取り、防災拠点とするなど地域の安心安全に暮らせるまちづくりに活用できるように生野区が主体的に大阪市大阪府に働きかけるべきではないか。」というご質問に対しまして区の考え方、対応でございます。「大阪府立生野工業高等学校については、令和8年度末をもって閉校となり、その後は『大阪市立の高等学校等の大阪府への移管に伴う譲渡財産の取扱いの基本的な考え方』に基づき、大阪府において売却することを基本としています。生野区役所では周辺住民の声をとりまとめ、売却にあたっては購入者を学校教育法に基づく学校とし、災害時の避難所として地域と連携・協力すること、閉校後は、防犯の観点からも速やかに売却手続きを進めていただくよう、大阪府教育庁に対して要望書を提出しています。閉校後については、市会における議論、生野区役所からの要望も踏まえつつ、府市教育委員会のプロジェクトチーム会議において協議が進めら

れることとなっています。」という区の考え方対応でございます。どうぞよろしく願いたいします。

続きまして、議事2のご説明をさせていただきます。

本日の議論いただきたいテーマになります。スライドかお手元の資料2をご覧ください。令和6年度からテーマを設定し意見交換を行っております。引き続き、今年度もテーマを設定し、皆さまのご意見をお伺いしたいので願います。

本日、特にご意見やアイデアをいただきたいことは資料に記載している通り、区や地域において様々な子育て相談やイベントが開催されているが、支援を必要としている家庭ほど情報が届きにくい（情報を取りにいかない）傾向が多く見受けられるため、地域内においても、より効果的に支援情報を届ける発信手法などあれば、皆さまのご意見をお伺いしたいと存じます。

支援情報が届きにくい要因は、日々の育児に追われ情報収集する時間がないことや、地域とのつながりが少なく知り合いを介しての情報入手が困難など背景は多々あるかと思いますが、ご家庭側から情報を取りに来るだけではなく、地域や関係機関から自然につながる仕組みづくりができればよいのではないかと。ということで、実現の可否を問わず自由にご意見いただければと考えております。どうぞよろしく願いたいします。

○今井委員

ありがとうございます。ただいま区役所からご説明がありました意見交換については時間をとりたいと思いますが、その前に、事務局からの説明について何かご質問がありましたら、まずはお受けしたいと思います。

なお、ご発言いただく際には、挙手のうえ、お名前を述べていただきますよう、願います。また、さきほど部会長からもお話があったように、発言される委員のみなさまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言及びお互いを尊重する発言をお願いできればと思います。

そうしましたら、事務局からのご説明で何かご意見や質問がありましたら挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

足立委員願います。

○足立委員

足立です。事前に質問を入れさせていただきました生野工業高校の跡地についてです。

基本的にはご回答いただいたもので、「そうだろう」と思っていますが、この件について地域住民の方など、皆さんご存知なのかなと。そもそも生野工業高校がなくなること、大阪府に譲渡されたこと、そして大阪府の財産になって、売却を決めるのが大阪府であるということは、あまりご存知ない方が多いのではな

いかなと思います。「区の考え方、対応」に書いてあるように、区役所がやはり防災の関係などで地域住民の意見を聞いて、それを要望するというのはとても大事なことだと思っていますが、どこの地域になるのかちょっとわかりませんが、生野の方かな、その方たちにきちんと説明して、意見を吸い上げるような形で、大阪府・市に対して区役所として住民の意見が反映されるように要望するというのを私はお願いしたいと思っています。「知らないうちに、何か来たな」ということがないように、特に当該の地域の皆さんには情報共有しながら、皆さんの意見を聞くというようなことをやっていただきたいと思います。以上です。

○今井委員

足立委員ありがとうございました。区役所の方も、こういったことを地域住民にしっかり説明するような機会を作っていただいたり、検討していただけたらと思います。

他にいかがでしょうか。浮田委員、お願いいたします。

○浮田委員

浮田です。

今の足立委員のご意見についてですが、私は生野工業高校の裏に住んでいます。防災のことも全部やっているのですが、大川副区長らと一緒に常に連携しながらやっているの、その辺は心配なしでいけるかなと思っています。防災上、あのあたりは路地が多いので、道を広げてくれって。いろいろな縛りもあるので、うちの地域の場合は大阪府営団地もありましてね。それを売却するときにも、行政の方と一緒に、工場地帯にするんじゃなくて、住宅地にしてくれと。全部縛りをかけて南部地区の整備事業をしている生野南部事務所の所長らとも、みんなやっていますので、足立委員が心配するようなことにはならないと思っています。知らないと思われてたらいけないので。ほとんどの人がわかっているのです。大丈夫だと思います。

○足立委員

安心しました。

○浮田委員

心配していただいて、ありがとうございました。

○今井委員

浮田委員ありがとうございました。このように区政会議が情報共有の場になるのはとても意義があるなと思いました。区全体に対しては、まだまだ周知が足りないということも言えるかもしれませんので、区の方もぜひお願いいたします。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

では、これから皆さままで意見交換を進めていきたいと思っています。区役所の方か

らテーマをいただきました。すぐに意見は出にくいかと思いますので、今回は少しお隣同士で話し合ってから意見交換という形にしようとなっております。

今回のテーマですが、区や地域において様々な子育て相談やイベントが開催されています。ただ、支援を必要している家庭、例えば、子育て層で忙しいとか、最近生野区にやってきたとか、言葉の壁があって日本の制度がわからないとか、あとはそもそも相談する場所がわからないというような方々がいらっしゃる中で区役所も困っていると。そのような中で、地域内でどのような形であったら情報が届きやすいのか、工夫などを、皆さまの生活や地域でのご経験から伺いたいということです。

実際どうですか。ロコミとか、あの人に「行こう」と誘われたから行くとか、子ども食堂にパンフレットが置いてあったら行こうとか。実際に地域で皆様のご経験がたくさんあると思いますので、何か良いアイデアなど、ご経験に基づいたお話をお聞かせ願えたらと思います。

ですので、区役所や個人に対する批判ではなく、積極的な話ができたらありがたいなと思います。区政会議委員の皆様も、子育て層だったり、地域で長年活動されてる方や外国人住民の方もいらっしゃいますので、ぜひいろいろなアイデアをいただけたらと思います。3～5分ぐらいでよろしいでしょうか。今の私の説明で何となくわかりましたか。お隣同士ですので、上田会長と安委員、足立委員と井筒委員、マヤ委員と西村委員、浮田委員と私でよろしいでしょうか。ではお願いします。少し意見交換をして共有したいと思います。よろしくお願いします。

～隣同士での話し合い～

○金田区政推進担当課長

そろそろお時間の方になりましたので、お願いします。

○今井委員

ありがとうございます。私もちょっと話し合いに入り込んでしまいました。

お1人ずつも話していただきたいので、3分ぐらいだったら皆さん話せるかと思うので、時計回りで大丈夫ですか。話し合いをされたお二人のうちどちらかが最初にお話しされて、もう一方が足りない部分があったら付け加えていただけたらなと思います。

○マヤ委員

よろしくお願いします。

今話し合った内容は、いろいろなインフォメーションを流す場所としては区役所を使うのはどうかと。特に外国人の方々で子育て中だったり、子どもが学校

に通っている方が、どんなことでもいろいろな相談窓口になっていったらいいなと思います。

○今井委員

ありがとうございます。西村部会長の方も、何か補足などがありましたらお願いいたします。

○西村委員

マヤ委員に仰っていただいて改めて「そうだな」と思ったのは、やはり区役所というのは誰でも知ってる場所、行きやすい場所でもあるし、そこに外国人の方も含めたいろいろなインフォメーションセンターを改めて作るっていうのも、かえって斬新な考えかなと思いました。それからやはり人と人との繋がりが大事なので、今ある地域のいろいろな活動、例えば防災の勉強会であったり、子ども食堂であったり、そういったところにお母さん方や外国人の方も積極的に参加していただけるような、そういう何か仕掛け・声かけなど地道な活動みたいなものがすごく大事なのではないかというお話もさせていただいていました。以上です。

○今井委員

ありがとうございました。人と人との繋がりの中でいろいろな情報が行き交うということで、防災の勉強会や子ども食堂みたいな場の話もしていただきました。そうしましたら、次、足立委員お願いいたします。

○足立委員

一つは保健師さんがやはりキーパーソンじゃないかなと思います。ただ、保健師さんは子どもからお年寄りまで、様々なことを担当されているので、すごくお忙しいんじゃないかと思って。保健師さんの方からなかなかアプローチがかけにくいから、こちらから伝えるのですが、やはりお忙しいのがすごくね。保健師さんは皆さん、子育て中の方にも繋がりたい、介護の方もやりたいと来られる度に仰っているんですが、1人で何地域も持っているじゃないですか。本当だったら1人1地域ぐらいでもいいんじゃないかと思っているのに、なかなかそのあたりがちょっと。やはり保健師さんの多忙化を一つ解消することで、そういう子育て層にいろいろな話ができるようにして欲しいです。保健師さんをキーパーソンにした支援を行ったらいいなというのが一つです。

あと、生涯学習というのを、区役所の運営方針などにもすごくメインで取り上げて上げられているけど、実は学校統廃合になって、生涯学習は状況が徐々に悪化しているというか、やはりなかなかやりにくい。今のところ、各学校跡地で続けていますが、これが将来的にどうなるかわからないという不安もあるのと、新しく増やせないとか、いろいろなことがあって、前回の区政会議では「そのあたりは柔軟に対応します。跡地の活用事業者が協力できるような形では持ってい

きたい。」というような回答が区役所からありました。それまでは絶対に駄目と言っていたんですよ。各小学校区に一つと最初は言っていたのが、それではやはり無理やということになって、統合してもそれぞれの元の地域で生涯学習ができるようになって、それでちょっと安心したのですが、新しい講座ができないので、井筒委員も私も生涯学習推進員をしているのですが、どうしても高齢者に偏っていて、子育て世代を生涯学習に入れたいと思うと、やはり近いところでのいろいろな講座があるかが大きいので、そういう意味では柔軟な対応とやはり場所とお金の問題があるなと思いました。

○井筒委員

子育てに関してはサロンなどもしているのですが、やはり保健師さんと生野区社会福祉協議会のこどもの見守り相談室の力が大きくて。本当は地域から情報をあげて欲しいのでまちづくり協議会の皆さんにもお願いしたりはしていますが、なかなか上がってこないで、やはり保健師さんに頼ります。健診などに来た赤ちゃんをものすごくよく見てられているので、「地域にこういう人がいましたよ。この人のところに行ってきます。」って必ず言っていて、一緒に行くという感じで地域に繋いでいただいている状態です。本当に保健師さんはよく動いてくださって、すごく頑張っているのですが、いろいろとその差があるということと、三つも四つも地域を持っていると本当に大変だと思うので、もうちょっと環境というか働き方改革じゃないですけど、働きやすくしてあげてくれると地域にももっと力を貸していただけるかなと思うので、すごくそれは必要だと実感しています。保健師さんは何も文句はおっしゃられませんが。

生涯学習に関しては、私もハンドベルとかをやっていて、子どもも入れてやっているのですが、なかなか定着が難しくて。お金のこともありますしね。なかなかそういうのも難しくて、子育て支援に関しても、まちづくり協議会からお金がなかなか出なかったりで動きにくいところがいっぱいあるので。まちづくりセンターの方にはすごく頑張っていて、まちづくり協議会もだいぶ変わってはきたのですが、なかなかまだまだという感じなので。まだまだ先の長い話ですので、頑張っていけないといけないのですが、町会長さんレベルでももうちょっと考え方を柔軟にいただけると、もうちょっと変わるのかなとは思っています。

○今井委員

ありがとうございました。キーパーソンとして「保健師さん」ということと、生涯学習ルームをもう少し、その活動自体のことと、あと子育て層にもどうアプローチしていくかというその両方を挙げていただきました。

では次の方々はどうかでしょうか。お願いします。

○安委員

支援が欲しい人や、ニーズがあるのかどうかというのはちょっとわかりづらいので何とも言えないところがあるのですが、私も PTA の会長をしていたので、町会組織がやはりものすごく大きくて、そこでの情報を何とか共有できたらいいなというような話を上田会長としました。以前の区政会議でもお話ししましたが、私が PTA の会長をしていた 20 年以上前には子ども会があったんですよ。地域は東桃谷ですが、各町会の中に子ども会があって、そこで子育ての悩みとか教育ができていました。今は少子化しているのですごく難しいのですが、上田会長も子どもがたくさんいて、子育て世代の話を聞けるのは、やはり子育てを直近で経験している人たちなので、そこでのコミュニケーション作りみたいなものが、何かあったらいいなという感じですね。私は巽南の方で子ども食堂を中心にした NPO 法人の役員になってるのですが、代表の方も、やはり一緒に寄り添うというスタンスがないとなかなか難しいということを仰っていました。若い人はやはり SNS ですね。ただ SNS で一番問題なのは、きちんとした情報ではなかったり、偏った情報だったりするところです。やはり face to face で同世代もしくは直近に子育てを経験した人たちを巻き込んだ互助組織というわけではないですが、そういう仲間たちの会があればいいのですが、今の町会がだんだん高齢化している中で、子ども会を作ること自体も厳しくなるという個人的な意見も付け加えて、そのように思います。

○上田生野区 PTA 協議会会長

補足して特に言うことはないですが。アナログだと思うのですが、やはり地域で役を持った方がいつも挨拶をしてくれるとか、声かけがあるというところに、安心であったりとか、いろいろな人間関係が出来上がって、そういう情報が伝わったりするのではないかなとも思いました。

○今井委員

ありがとうございました。町内会組織や子ども会など、昔あったものが、少し繋がりが薄くなっているのをどうしていくかという話と、やはり子育て層の方の話を聞ける場をしっかりと作っていく必要があるのかなとも思いました。ありがとうございます。

では、私と浮田委員の話し合いは私からさせていただきます。まず、浮田委員からの的確なことを言っていただいたと思います。何人くらいの人たちが本当に困っているのか。また、どういう立場・状況で困ってるのかということをしかり示してほしいと。数として示していただいて、それに対してしっかりとアプローチしていくということが大事なのではないかと。最初の一言がその通りでした。その上で、私は驚いたのですが、浮田委員の地域では、会館をピンク色にして、風見鶏なんかも作って子どもが来やすい場所にいるということや、障がい

がある子どもが来る時にはしっかりと話し合っ、どのようにしたらいいかということを考えていたという話を聞きました。浮田委員は「そんなの当たり前だから、どこでもやっているよ。」と仰いますが、今聞いていただいている皆さんもうなずいています、繋がりが薄くなる中でそれが繋がっていなかったり、あるいは「当たり前」と仰ることで、せっかく良いことをしても、今までやってきたことが若い世代には広がらなかったりする中で、何かぜひこれまでやってこられた方々のノウハウ・知恵あるいは愛情みたいなものを、しっかりと形にしていくことが大事なのではないかと思ったのと、あと先ほどの安委員と上田会長が仰られていた、アナログなのか SNS なのかみたいなところでは、浮田委員が仰っていたのはやはりアナログでした。顔が見えるっていうことを仰っていたので、まだ時間があるので、何かそのあたりについても、ちょっと一周して、Face to Face、アナログでどうやって情報を伝えたり、人の繋がりで子育て層が助かっていたり楽しんでいるとか、何かそういった内容をお聞きしたいなと思います。浮田委員、何か追加されますか。

○浮田委員

先日、どこの学校でもあると思うのですが学校協議会がありまして、そこでちょっと代表をやらせていただいていた、現 PTA の方たちも来ていましたのでご挨拶をしました。私たちの子どもの世代が、現 PTA なんですね。私たちの常識が彼らの非常識になっていて、彼らの常識が私たちにとっては非常識なんです。そういう時代になっている。それを一番感じたのは卒業式の時。私たちは来賓で行かせてもらうのですが、今日この区政会議にはジーパンで来ていますが、卒業式・入学式には必ずきちんと白いネクタイをして行きます。でも、現役の人たちは普段着で来ていたりします。それで1回ちょっと怒ったことがあるんですけどね。「私たちは仕事を休んで来るんやで。」「あなたたちが来賓を迎える姿勢がおかしい。」って。もうその時点でずれが生じています。私たちが現役の時先輩方がいて、「入学式は桜茶」「卒業式は昆布茶」というように教わってきているのが、今の人たちはコロナ禍もあったので、「お茶はペットボトルでいいんじゃないか」という発想まで出てきている。現実的なんですよ。

PTA の会費についても、教育委員会の方から「参加を強制はできないから」と言われると、もううちの学校では、入っても入らなくてもいいよというアンケートまで取っています。そんな中でこのテーマなんです、私にしたら、「助けて」と言われたら、いくらでも助けますよね。ここにいる皆さんは経験も豊富です。でも、先ほど SNS の話もありましたが、SNS の発信を見ているなら声掛けるでしょって思います。それもできないぐらいの何なのか、このテーマの内容が私にはわかりません。どこに目を向けたらいいのかって、たぶんその答えなんか出せないと思っています。だから何に対して支援をしていくのかっていうテーマを

きちんと行政の方も出してもらわないと。こういう人たちは現実にはいるんです。

あと一つだけ。先日、生野未来学園の裏で火事があり、現役の方と幼い子どもが救急搬送されて意識不明でした。防災をやっていて衝撃的でした。いつも子どもたちに避難の仕方を教えているんですが、やはりできなかったというのがすごくショックで悲しかったです。じゃあ、私たちが考えて、何かできるのか。今回のテーマも、行けないところに何を踏み込もうとしているのかが私はよくわからない。以上です。

○今井委員

浮田委員ありがとうございました。ただ、置かれた環境・状況・背景は様々で、そこはやはり想像したりすることが私たちも必要かなと思いますし、むしろ今回ここでお話しいただきたかったのは、地域の知恵が多分たくさんあると思うので、どうやったら情報が届きやすいか、受け取りやすいか、どんな人であれっということかだと思います。なので、ぜひあともう1周ぐらいできますかね。そうしましたら、先ほどの世代の話もありましたので、世代を超えて情報交換できるような場がもしあるのであれば、どんな場であるかとや、皆さんFace to Faceで情報をどのように渡していращやるかとか。特に子育てに関して何か具体的な場面・場所や「キーパーソンが地域にたくさんいるよ」みたいな話があればありがたいかなと思います。

こんな感じでもう1周、1人一言ずつ言っていただけるような感じでいいでしょうか。

○西村委員

SNSなどというのは、実際、若い方たちにとってはすごく情報が入ってくるものだと思うのですが、それだけではなく、顔の見える関係というのが大事だと思います。やはり繋がりの中から、「この人に相談しよう」というようなことができるのではないかと思います。本当に深い相談というのは、顔の见えない関係ではなかなかできないんじゃないかなと思っています。

直接、子どもさんに関係することではないかもしれませんが、うちの町会で、50坪ぐらいのそれほど大きくないサンダル工場があったのですが、4月になっていきなり何かの寮になったみたいだと近所の方から連絡がありました。そして50台くらい自転車が並んで、そこに外国の方が寝泊まりしだしたんです。どういった場所なのかわかる看板も上がっていきなくて、5月半ばになって、結局日本語学校の寮だということがわかったんです。発音の違いで、聞き取りが難しく、やり取りでちょっと誤解があったりして違う学校に行ってしまったりもあったのですが、学校がわかったので、私は町会長もしているので、「町会の行事もいろいろとあるので、ご挨拶に伺いたい。」とメールを送ると、「こちらか

ら挨拶に行きます。」とすぐに返信が返ってきて、校長先生が来てくれて、寮を案内してくれたりしました。またこちらにも女性部長と一緒に日本語学校まで行って授業の風景を見させていただいたりもしました。子どもたちは休み時間になったら1人1人自己紹介してくれて、一緒に写真を撮ったら「写真をください」とか言ったりして本当に人懐っこい。子どもと言っても、20歳前後の子たちですが、たくさん来てくれていて、昨日なんかは寮の前を掃除してくれたりしていました。寮の名前の看板も学校が掲げてくれたので、これで地域の皆さんも少し安心していただけるなと思いました。地域の中の役員でも情報共有したり、通りがかりの人にも説明とかしたり、そういうことで一つずつ繋がって行って顔が見えて、やり取りをして。子育て中の方や、一人親家庭の方にしても、そういった中の方が情報も伝わりやすいし、お互い相談もしやすいんじゃないかなと今回の事例を通して強く感じたことがありましたので、ちょっと共有させていただきました。

○今井委員

ありがとうございます。そうしましたら、少し時間の関係もあるので、具体的な方法や場所みたいなことについてもしありましたら、一言ずつお願いいたします。

○マヤ委員

私は、今自分で営業している場所を使って日本語のサポートクラスのようなものをボランティアでやっています。そこは、例えば子育て中の方などのために、いろいろな情報が流せる場所になっています。その他は、例えば、同じ小学校の同じ学年同士の親たちのLINEグループを作ったりして、そこでいろいろな情報を流したり、困り事を解決する場所にすごくなっています。日本の方々プラス海外のネパール語と英語を話せる方々の中でも、このようなものを使っていろいろとコミュニケーションを取ったり、情報をもらったり発信したりしています。最近は皆さんビザのことやいろいろなことですごく困っていて、「最近SNSでこんな情報を見たけど本当ですか」とすごく泣きそうになりながらで来るので、専門的な知識を持っている知り合いもいるので、その方々と一緒にお話ししながら、「それは違うよ。本当の情報はこれだよ。」とか言いながら、まちの皆が繋がる場所になるよう努力しています。そういったものもあつたらいいかなと思います。

○今井委員

ありがとうございます。具体的に日本語教室やそういったところで情報を回していると。ありがとうございます。

井筒委員お願いいたします。

○井筒委員

私は個人的に子育てサロンのチラシを持ち歩いたりしていて、ちょっと怪しいですが、ベビーカーを押しているお母さんに「子育てサロンに来てみませんか」と声を掛けて、チラシを渡したりしています。個人で本当に頑張っているのですが、それでサロンに来てくださったら、お母さん方の繋がりができます。LINE で繋がったりとかもあったり、困っていることを保健師さんに相談できたりするのと、子どもが会館で遊べる日も作っていますので、そこに障害のあるお子さんをお母さんが連れてこられて、「私も助けて欲しいです」と仰ったこともあります。なので、とりあえず動いてみて、あがいてみてというか、繋がる場所、子どもが遊びに来る場所を、町会なり何なりでたくさん作ってあげたら、親もくっついて来ます。その中には困ってる方が必ずいるので、とりあえず集まる場所を作るという努力を、何人かが続けていけばいいんじゃないかなと思っています。

○今井委員

ありがとうございました。遊ぶ場所を作ってこられたということですね。足立委員はいかがでしょうか。

○足立委員

私も子ども食堂とかをやっているのですが、表で自転車に乗って通っていく人と目が合ったら声を掛けるみたいなことをやっています。こんなことをやっているよって。地域の方でも何かやりたいなのというのがあって、生野地域の“あてもん屋さん”を見学に行かせてもらったら、すごく簡単でできそうだったので、去年から真似して同じような形で月に1回やらせてもらっています。これは女性部長さんとやらせてもらっています。生野地域にはたくさん来ていたのですが、うちの地域はぼちぼちという感じです。他の地域に見学に行かせてもらうのもすごく良いなと思っているのが一つです。

あと、いつも思うのですが、例えばこの事業内容のところで、子育てしやすいまちづくりをめざして子育て支援団体・グループが実行委員会を組織してイベントを開催するって書いていますが、実行委員会はその簡単に組織できるものじゃないから、このような事を言うのであれば、これに関して区役所がリーダーシップをとって、ある程度具体的に、「こんなもので、だからここに参加してほしい」というようなビジョンを出してもらわないと、いきなり子育て支援の団体に何か実行委員会を作ってと言っても、そんなに簡単にできるものじゃないから。私もいつも思うけど、こんなふうにぼんと書かれて、だったら、先ほど仰っていたみたいに、もう少し具体的に、「ここまでは区役所で考えたからここをマンパワーでやってほしい」みたいなものを、主体的に示してほしいというのがあります。いきなり投げられても困るので、「これは区役所の方でこういうことを

後押ししているの、こういうのを具体的にやってほしい」と言ってもらえたら、やってる実行委員会が、区役所が支援してくれるとなれば地域も皆も応援してくれてるけど、ぼんと子育て団体とかグループに、何のあれもなく投げられても、そこがなかなか広がらないなと思うので、具体的にもうちょっと示してほしいなと思っています。

○今井委員

ありがとうございます。企画とか運営の段階から一緒になってしっかりやっていきましょうということだと思いました。

安委員いかがでしょうか。

○安委員

過去のことを言って申し訳ないですが、「多文化共生のまち」を標榜している生野区では、以前、やさしい日本語協力店にマップとステッカーを持っていくというのと、私も参加したのですが、NTT グループの人を呼んで、やさしい日本語のレクチャーをして、勉強してもらうことと、組織化というのをやったんですね。子育て協力店舗みたいなね。

例えば、巽南の飲食店でいくつか私が関わっている子ども食堂の事業がありますが、食べるものなので、当然飲食店になるんですよね。子どもたちが喜ぶのって、やはり一つは食べることなんです。そのように協力してくれる店舗が生野区には土台としてあるので、そこに協力してもらえないかというね。足立委員の話にも絡みますが、人とお金がないと組織化できないので、先ほど上田会長とも話したのですが、支援を必要としているターゲットは一体どこなのか、そのターゲットのために人と物とお金が出せるのかっていうことと繋がるので、そこがないと、「今日はいい話だったな」で終わってしまうような気がするんです。

だからその心構えというのは、やはり行政として示してほしいなと今話を聞きながら思いました。

○今井委員

ありがとうございました。上田会長、どうぞお願いいたします。

○上田生野区 PTA 協議会会長

先ほど言った通りで、やはりアナログが大事かなと思います。声かけ、挨拶です。

○今井委員

ありがとうございます。

浮田委員いかがでしょうか。

○浮田委員

大丈夫です。

○今井委員

浮田委員には最初にパンチの効いた、これをきちんとどのぐらいの数がいるのか、どういった課題があるのかっていうことを言っていただきました。それと併せて行政の施策としてお金やいろいろなことも含めてですが、どのように進めていくかが一つの課題とわかった一方で、Face to Face、アナログで、遊びの場をたくさん作って、食べ物でいろいろなことをして、「あてもん」という形でやって、やはりそれは生野区の皆さんのこれまでの地域活動の賜物だと本当に思うので、ぜひそこを区役所の方はしっかりとどう繋げていくかっていうことを考えていただけたらなと思いました。

そうしましたら、その他に何かご質問やご意見などよろしいでしょうか。これ以上ご意見がないということですので、意見交換を終了させていただきます。ありがとうございました。

では部会長にお渡しいたします。

○西村委員

ありがとうございました。西村です。ちょっと私が長くて申し訳なかったです。今井委員、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「報告1 区政に関する意見交換会の開催について」及び「報告2 その他」について、事務局から説明をお願いします。

○金田区政推進担当課長

皆さま大変お疲れ様でございました。それでは報告1及び報告2について、事務局から説明いたしますが、その前に一つだけお伝えいたします。先ほど、意見交換会を2人ずつ話し合いをしていただいた部分ですが、会議録の作成ができませんので、その分については会議録から削除する形となりますので、ご了承いただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは報告させていただきます。

○保井区政推進担当課長代理

それでは私の方から資料をご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

では報告1でございます。資料3もしくは、前方のスクリーンをご覧ください。令和6年度より実施させていただいている「区政に関する意見交換会」についてです。昨年度の部会でもお話をさせていただいている、「区民わがことSDGs」として、生野区将来ビジョンに掲げる基本理念としての「異和共生」の考えに則り、10番の「人や国の不平等をなくそう」を昨年度より選定しているところですが、今年度はこれからの生野区の未来を担う中学生を対象として、これまでSDGsに関して、学校で取り組んできたことや今後取り組んでいきたいことなど、自由で柔軟な発想や意見を聴収し、今後の行政としての施策、事業展開を検討していく

参考とするため、意見交換会を開催したいと考えております。対象は、区内 8 中学校よりご出席いただける生徒会役員の方を中心に、開催時期は中学生であることを鑑み、夏休み中に実施する予定としております。

つづきまして報告 2 について説明させていただきます。資料 4 または前方のスクリーンをご覧ください。先ほどもお話をさせていただきましたが、各区における「区民わがこと SDGs」の推進についても、2030 年の目標年次を見据えて、さらなるブラッシュアップを図るべく、区ごとの特性・実情と親和性の高い SDGs ゴールに焦点を当てた普及・啓発に取り組むこととされております。つきましては、生野区としての SDGs ゴールの選定を行う必要があることから、SDGs17 項目の中から、生野区の基本理念としての「異和共生」の考えに則り、令和 7 年度に引き続き、10 番の「人や国の不平等をなくそう」を選定することとします。SDGs のゴール選定にかかる説明は以上になります。

事務局からは以上です。

○西村委員

ありがとうございました。

ぜひ中学生の意見交換会については、若い世代の方々の自由かつ重大な柔軟な発想や意見を聞いていただいて、施策・事業に生かしていただければと思います。

それではその他、事務局から何かございませんでしょうか。

○金田区政推進担当課長

最後に事務局から一つだけお願いです。本日いただいたご意見につきましては 7 月 14 日に開催されます全体会で部会報告をしていただきまして、他の部会の皆さまにも共有させていただきます。部会報告の内容は、事務局にて一旦整理いたしまして、本日、意見交換会の進行を務めていただきました今井委員と調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上となります。

○西村委員

ありがとうございました。

先ほどの中学生の意見交換会についての報告について、意見ではないですが、すぐには無理でしょうが、小学生などの意見なんかも入れてあげてもらえたらいいかなと思いました。子どもの権利条約というのがいろいろなところで言われています。子どもの権利条約を知らない子どもたちが多いというのが、おかしいのではないかという子どもの意見を最近耳にしたものですから、学校統廃合のことにしても、どれだけ子どもたちの意見を聞かれてるのかなとも少し思ったりしました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、齋藤区長から一言お願いします。

○齋藤生野区長

皆さん、本日は長い時間、熱心にご議論いただきまして本当にありがとうございます。

今日、委員の皆さまからたくさんの貴重なご意見をいただいたと感じておりますが、2人ずつで話し合いをしているところを横から見させていただきましたが、お互いに顔を見合わせて一生懸命話し合いをしてくださっている姿を見まして、やはり子どもの未来を考えるにあたっての皆さんの熱意というものがすごい感じられる場だなと思いました。様々なご意見をいただきましたので、1つ1つをとりまとめるようなことを今日はしませんが、例えば、外国につながる住民に対して、インフォメーションセンター的な機能は区役所の信頼をしっかりと生かすべきじゃないかであったり、防災だったり子ども食堂といった場も生かして人の繋がりを生かしてしっかりと情報を伝えていくことの大事さについてのご意見もありました。そもそも意見交換のテーマを設定するにあたっては、データの根拠がしっかりと示されていないから考えにくいというご指摘もいただきましたり、実際に施策にどう生かすのかということですね。もちろん今日だけの意見で施策を作るのではなくて、今日は一つのきっかけだと思っています。我々の気づきでもありますし、今日の場合だけではなくて、今後、皆さまにいろいろなアイデアいただいたり我々も問題提起もしながら、政策を組み立てていく一つのきっかけなのだろうと思っていますので、今回これを言ったから区役所はどうするのだということではなく、また機会があれば区役所に来ていただく、我々の方も委員の皆さまのところに足を運んで「実はこういうことあるんですよ」というお話もさせていただける。そういったきっかけになればいいのかなと思っています。

保健師の活躍ぶりをご評価いただきながら、なかなか今の体制ではしんどいというようなお話もありました。区役所の財源も人材も非常に限られてますから、それを急に増やしたり、予算を付けるというのはなかなか難しいと思いますが、そのようにお褒めいただいたことは、職員の誇りにもなると思います。ただ、そのような状況の中で、効果的にやっていくために我々としてどうするのか、区民の皆さまにもどう協力いただくのか。もちろん区の職員だけでできるものではないですし、区民の皆さんだけでもできない。いかに繋がりを生かしてやっていくのか、そのためのきっかけは今日あったのかなと思っています。

先ほど言いましたように、これから施策を立案していくにあたって、今日いただいた意見を材料とさせていただき、事務の改善に繋げていきたいと思っていますし、引き続きお力添えを賜りたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

本日はどうも誠にありがとうございました。

○西村委員

齋藤区長ありがとうございました。

皆さま、円滑な運営にご協力いただきまして感謝を申し上げます。

区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語りあえる場です。令和8年7月14日には、全体会の開催が予定されておりますので、よろしくお願いします。

それでは、これにて「こどもの未来部会」を終了します。皆さまお疲れ様でした。